06 大会運営費（組織委員会予算）の試算

〈大会運営費（組織委員会予算）で考慮するポイント〉

- 原則、税金は投入しない計画とします
- 不測の事態への対応のため、予備費を確保します
- 収入に見合った効率的な大会運営に努めます

大会の運営に要する経費は組織委員会が集めた収入でまかなうものとしており、その予算はおよそ2,200～2,400億円と試算しています。

収入はIOCの負担金やスポンサー収入、チケット売上収入等で構成され、原則、税金は投入されず、民間資金による収入でまかなう計画とします。

支出はセキュリティや輸送、宿泊に要する費用や観客席の一時的な増設といった仮設費用等を見込んでいます。

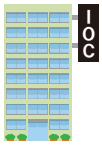
さらに、東京2020大会における新型コロナウイルスへの対応等、不測の事態に対する予備費を見込んでいます。

札幌市はこれまで、3度の冬季アジア競技大会をはじめとする冬季競技の国際競技大会の開催に携わり、大規模スポーツイベントの運営ノウハウを蓄積してきました。その経験を存分に活用し、収入に見合った大会運営を行っていくことを基本として、今後も費用の削減に向けた検討を進めていきます。

国内・国外

収入　2,200～2,400億円

【IOC負担金・TOPスポンサー収入】



920億円

IOCが契約している放映権料などの収入やTOPスポンサー収入を組織委員会に配分され、2026招致プロセスをもとに積算。

【国内スポンサー収入】

800～1,000億円

各スポンサーがオリンピック・パラリンピックの価値に共感して提供。協賛金と現物支給がある。過去の冬季大会の実績値を参考に積算。

【チケット収入】

240億円

競技観戦チケットの売り上げで、札幌大会の会場や収容人数から積算。

【ライセンシング収入・その他】

240億円

グッズ販売などにより得られるライセンシング収入、寄付など過去大会を参考に積算。

組織委員会

開催地

支出　2,200～2,400億円

【仮設費】

630億円

- 屋外競技の仮設照明設置
- 仮設のユニットハウス、テント設置
- 仮設観客席の設置

➡大会後には撤去する一時的な増強

【その他運営費】

- セキュリティ（会場の警備など）費用
- 組織委員会職員の人件費
- 開閉会式や聖火リレーなどの式典費
- 通信インフラの構築やシステムの更新費
- 大会関係者の輸送費
- 組織委員会の組織管理 など

©写真：ロイター/アフロ

©写真：ロイター/アフロ

1,370億円

【予備費】

200～400億円

- 不測の事態の備え

国内外から集まるお金で大会を開催し、北海道・札幌市での消費が促進

大会の運営に要する経費

○札幌市が独自に試算したもので、今後変更することがあります。

収入

単位：億円

項目	金額
IOC負担金	640
TOPスポンサー収入	280
国内スポンサー収入	800～1,000
チケット売上	240
ライセンシング	90
その他	150
合計	**2,200～2,400**

支出

単位：億円

項目	金額
会場インフラ	750
―仮設費	630
―エネルギー	120
競技大会、大会サービス及び運営	510
―宿泊、医療、セキュリティ、輸送等	
テクノロジー	250
人材管理	160
式典及び文化	30
コミュニケーション、マーケティング及びルック	60
組織運営及びレガシー	80
その他（マーケティングロイヤリティ含む）	160
予備費	200～400
合計	**2,200～2,400**